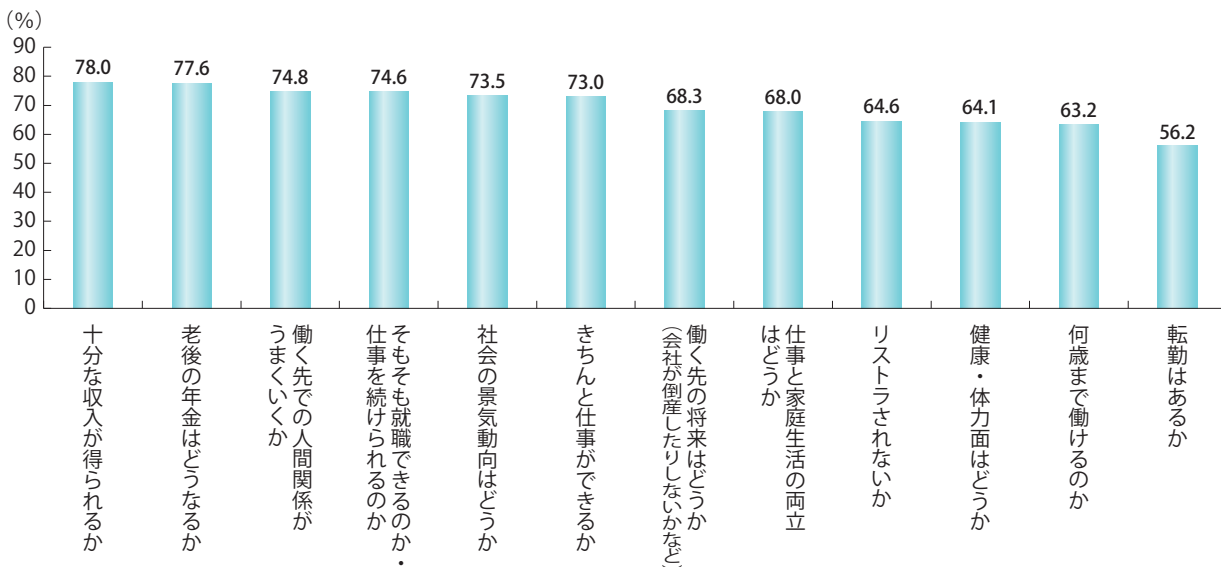


または将来への不安は、収入、老後の年金、働く先の人間関係、就職できるか・仕事を続けられるか、社会の景気動向の順で高い（図表26）。多くの項目で7割前後の若者が不安を感じており、また、全ての項目で諸外国の若者の回答割合を上回っている。

図表26 働くことに関する現在・将来の不安



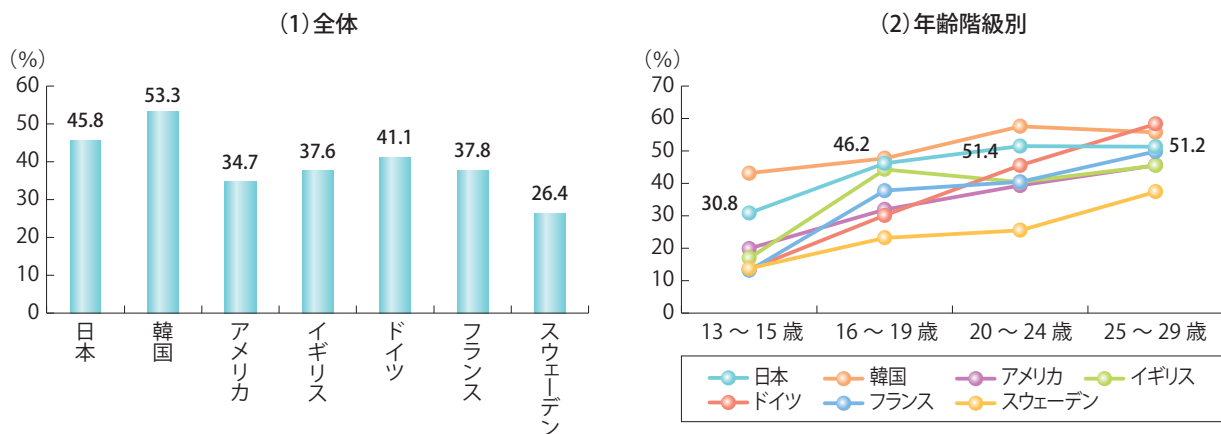
(注) 各項目において「不安」「どちらかといえば不安」と回答した者の合計。

## 7 結婚・育児

日本の若者は、早く結婚して自分の家庭を持ちたいと思っている意識が、欧米諸国と比較して相対的に高い。一方で、40歳になったときに、結婚している、子どもを育てている、というイメージを持っている者の割合は、諸外国と比較して相対的にやや低い。

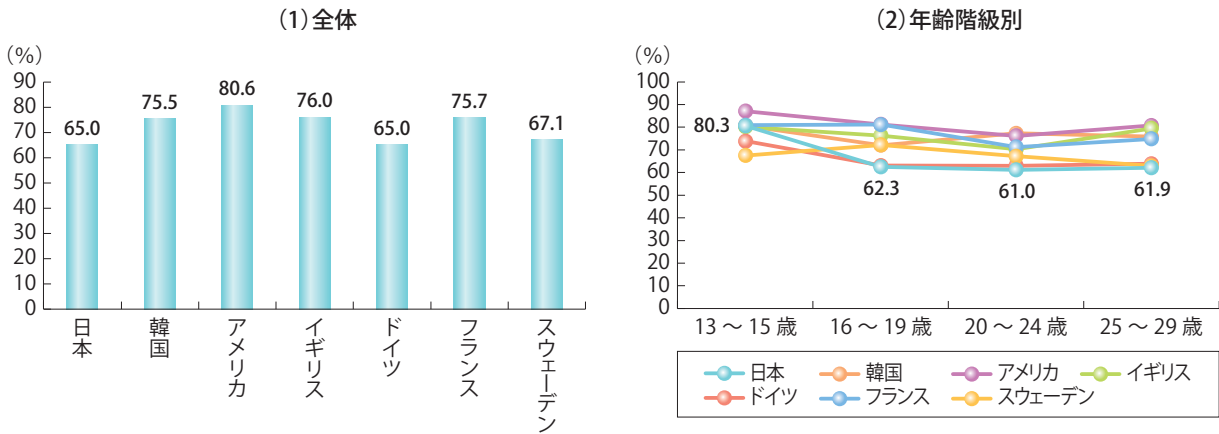
日本の若者は、年齢層が上がるにつれ、早く結婚して自分の家庭を持ちたいと思っており、その意識は欧米諸国と比較しても相対的に高い。一方で、40歳になったときに、結婚している、子どもを育てている、というイメージを持っている者の割合は、諸外国と比較して相対的にやや低い。結婚や子育ての願望はあるが、具体的なイメージを持っていない傾向にあるといえる。（図表27、28、29）

図表27 早く結婚して自分の家族を持ちたい



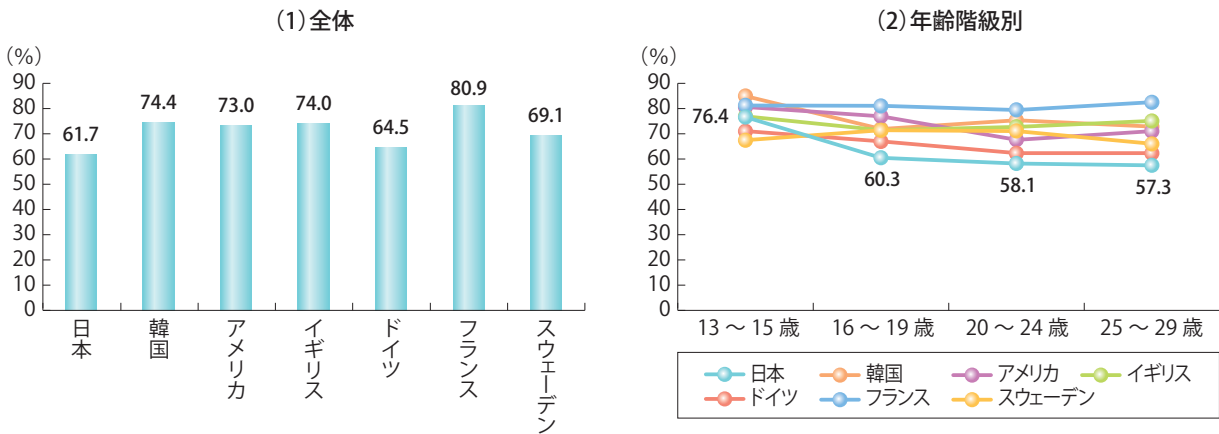
(注) 「次のことがらがあなた自身にどのくらいあてはまりますか。」との問いに対し、「早く結婚して自分の家族を持ちたい」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計。

図表 28 40歳になったときのイメージ（結婚している）



(注)「あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか。」との問いに対し、「結婚している」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計。

図表 29 40歳になったときのイメージ（子どもを育てている）



(注)「あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか。」との問いに対し、「子どもを育てている」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計。

## 8 若者の意識から得られる施策への示唆

今後の子ども・若者育成支援施策に対する示唆について、①将来への希望、②結婚・育児に対する意識、③自国への認識の3つの観点から、考察する。

### (1) 将来への希望

日本の若者は諸外国の若者と比べ、自分の将来に明るい希望を持つことができていない。将来に明るい希望を持てるかどうかは、大きく分けると、①自分自身を肯定的に捉えられているか（内部要因）、②自国の将来を肯定的に捉えられているか（外部要因）が関係すると考えられる。実際、自己肯定感が高い若者や自国の将来に明るいイメージを持っている若者は、将来への希望を持っている割合が高い<sup>2</sup>。

(図表 30)

2 「将来への希望」を被説明変数とし、「自分自身に満足している」と「自国の将来性」を説明変数として回帰分析をすると、決定係数は低いものの、それぞれが高いほど「将来への希望」を持っており（ともに1%水準で有意）、「自分自身に満足している」のほうが影響が大きいことが試算される。